

# IdeoType ユーザガイド

2008年2月13日



# 目次

|                            |           |
|----------------------------|-----------|
| はじめに                       | iii       |
| 概要                         | iii       |
| 目的                         | iii       |
| 方針                         | iv        |
| ライセンス                      | v         |
| 謝辞                         | v         |
| <b>第 1 章</b> <b>セットアップ</b> | <b>1</b>  |
| 1.1   ハードウェア               | 1         |
| 1.2   ソフトウェア               | 1         |
| 1.3   IdeoType の配布物        | 3         |
| 1.4   インストール               | 3         |
| <b>第 2 章</b> <b>使い方</b>    | <b>5</b>  |
| 2.1   原稿を準備する              | 5         |
| 2.2   原稿から PDF を生成する       | 6         |
| 2.3   ファイルを片付ける            | 6         |
| 2.4   進んだ使い方               | 7         |
| 2.5   トラブルシューティング          | 8         |
| <b>第 3 章</b> <b>カスタマイズ</b> | <b>9</b>  |
| 3.1   出カスタイルのカスタマイズ        | 9         |
| <b>付録 A</b> <b>原稿の記法</b>   | <b>11</b> |
| A.1   タイトルと見出し             | 11        |
| A.2   ブロックおよびインラインのテキスト    | 12        |
| A.3   Lists                | 16        |

## ii 目次

|     |                        |    |
|-----|------------------------|----|
| A.4 | サポートされていないもの . . . . . | 16 |
| A.5 | グラフィックス . . . . .      | 17 |
| A.6 | 表 . . . . .            | 19 |
| A.7 | 数式表現 . . . . .         | 20 |
| A.8 | 拡張 . . . . .           | 21 |

# はじめに

## 概要

---

ようこそ。IdeoType は高品質な書籍を簡単に執筆・編集・出版するのを手助けするソフトウェアです。

技術的には、IdeoType は XHTML ベースの原稿から PDF を作り出すコンバータです。Web ブラウザを使えばリアルタイムで原稿のおおよそのプレビューができますし、出力された PDF を見れば印刷されたときにどうなるか正確にプレビューできます。

素早くフィードバックを得られれば、制作物の品質が上がります。従来型の執筆プロセスとは違って、IdeoType では「書いて、仕上がりを見て、書き直す」というサイクルを、何度でも、そして待ち時間なしに繰り返せるのです。IdeoType はそうやって著者が高品質な本を生み出すのを支援します。

この文書では、このソフトウェアをどうやって使うかを説明します。

## 目的

---

IdeoType の目的は単純です。みんながいい本を簡単に作るのを手伝うというのがその目的です。

私たちは本が好きです。だから良い本を簡単に作りたいのです。

良い本とはすなわち：

- 読みやすい
- 分かりやすい

だから次のものが重要です：

- きれいな組版

- 改善（書き直し）を徹底的に繰り返せるような仕組み

しかし既存の道具は、それらが設計された用途には大いに力を発揮するものの、私たちの望みは満たしてくれません。

- 対話的な DTP ソフトウェアは使いやすいのですが、操作する人がいないと動きませんから、原稿を修正するたびに時間とお金がかかってしまいます。
- LaTeX や XML ベースのソフトウェアは無人でバッチ処理できますが、習得が難しいという問題があります。

IdeoType はこれを次の方法で解決します：

- 扱いやすくオープンなインタフェース（XHTML）
- 即時に自動的に組版してくれる、バッチ処理バックエンド（LaTeX、XML など）

IdeoType は、既存の道具の優れたところを組み合わせ、高品質な組版と繰り返しによる改善のしやすさを提供します。

（なお、創作活動においてはコラボレーションその他も大事ですが、それは IdeoType の範囲外です。それらについては並行編集可能なバージョン管理システムなどが役に立つでしょう。）

## 方針

---

私たちの原則は次のとおりです：

- 人間が創造的なことに集中できるようにする。ルーチンワークは機械にやってもらおう。
- 自由を広げて、コストを抑える。

したがって私たちは次のことが大事だと考えます。

- オープンなデータと、オープンなコード。
  - みんな自分のやりたいようにできる。ほかの道具で加工しやすい。
- 慣習に従う。インタフェースにはよく知られたものを使う。
  - 学習・開発・維持にかかる人的コストを抑える。
- どうしても必要なとき以外、新規にコードを書いたりルールを発明したりしない。
  - 既存の道具を利用する（＝より少ない労力で済み、バグも少ない）。

- 標準に従う (= 互換性と可搬性が増す)
- 機能を抑える (= 負荷を抑え、維持しやすくする)
- 依存を避けモジュール性を保つ。
  - 将来の変化に対応しやすいように。

## ライセンス

---

Copyright (c) 2005-2008, Project IdeoType. All rights reserved.

IdeoType は自由なソフトウェアです。LICENSE ファイルを参照してください。

## 謝辞

---

このソフトウェアは IPA 2006 年度上期・2007 年度第 II 期末踏ソフトウェア創造事業の支援を受け、美馬義亮 PM の指導の下開発されました (<http://www.ipa.go.jp/jinzai/esp/><sup>\*1</sup>参照)。美馬 PM をはじめ、ご指導・ご協力いただいたみなさんに感謝いたします。

---

<sup>\*1</sup> <http://www.ipa.go.jp/jinzai/esp/>





# 第 1 章

## セットアップ

まず必要なソフトウェアをインストールして、そのうえで IdeoType をインストールしてください。

### 1.1 ハードウェア

---

#### 1.1.1 必要なハードウェア

特別なハードウェアは必要ありません。普通の PC で十分です。

### 1.2 ソフトウェア

---

#### 1.2.1 必要なソフトウェア

IdeoType を実行するには次のソフトウェアが必要です（括弧内はテストに使った Debian パッケージ名）:

- Unix-like operating environment (Debian GNU/Linux 4.0 (etch))
- xsltproc (xsltproc 1.1.19)
- XHTML plus Math 1.1 DTD (w3c-dtd-xhtml 1.1, w3-dtd-mathml 2.0.0.0)
- Ruby (ruby1.8 1.8.5)
- Rake (rake 0.7.1)
- pLaTeX (ptex-bin 3.1.10<sup>beta3</sup>+0.04b, ptex-jisfonts 2-19)
- Adobe CMaps (cmap-adobe-japan1 0+20040605, cmap-adobe-japan2 0+20020208)
- mendex (mendexk 2.6d)

## 2 第1章 セットアップ

- dvi2pdf (dvi2pdf 20050831)
- jsbook/jsclasses LaTeX class (okumura-clsfiles 2006.11.06)
- Computer Modern font (cm-super 0.3.3)
- Ghostscript (gs-esp 8.15.3, gs-cjk-resource 1.20021122)
- ImageMagick (imagemagick 6.2.4.5)
- RMagick (librmagick-ruby 1.15.8)
- pdffinfo (xpdf-utils 3.01)
- epstool (epstool 3.08)
- nkf (nkf 2.07)
- GNU wget (wget 1.10.2)
- HTML Tidy (tidy 20051018)
- unzip (unzip 5.52)
- time (time 1.7)
- Apache FOP (fop 1:0.94)

詳しくは配布 tarball 中の `debian/control` にある `Depends:` フィールドを見てください。

このソフトウェアの開発には次のものを使っています：

- Debian GNU/Linux unstable (sid)
- GNU make (make 3.81)
- Subversion (subversion 1.4)

依存関係の面倒を避けるために、パッケージ管理システムを備えた OS を使うことをおすすめします。お手数をおかけして申し訳ありません。

Windows ユーザの方へ： IdeoType はまだ Windows を直接サポートしませんが、VMware や coLinux のような仮想環境にインストールした Unix 系 OS 上で動かすことは可能です。

Mac OS X ユーザの方へ： IdeoType はまだ Mac OS X 向けにパッケージされていませんが、必要なソフトウェアが MacPorts や Fink その他を使って用意され適切に設定されていれば起動することは可能です。ただしまだ実用的とは言えません。パッケージングに協力してくださる方は歓迎します。

### 1.2.2 推奨するソフトウェア

これらは必須ではありませんが、選択の余地があるならおすすめします。

- Debian GNU/Linux<sup>\*1</sup>
- Mozilla Firefox (1.5 and above, which supports MathML by default)
- MIT MathML fonts

### 1.2.3 便利なソフトウェア

なくても動作しますが、一緒に使うと便利なソフトウェアです。

- nxml-mode, psgml-mode / Emacs (for editing XHTML/XML)
- Web Developer extension for Firefox (for validating XHTML with w3 validator service)
- OpenOffice.org Draw (for drawing diagrams)
- Adobe Acrobat (Professional, for making commercial-print ready PDF/X)
- Decent fonts

## 1.3 IdeoType の配布物

バイナリパッケージやソースコードも含めて、すべて次のサイトで手に入ります：

<http://sourceforge.net/projects/ideotype><sup>\*2</sup>

## 1.4 インストール

### 1.4.1 Debian パッケージ

Debian パッケージは簡単にインストールでき、アンインストールも簡単です。deb パッケージをダウンロードして、dpkg でインストールします。

```
$ sudo dpkg --install ideotype_x.y.z-*.deb
$ sudo apt-get install -f
$ sudo dpkg --install ideotype_x.y.z-*.deb
```

Apt line を unstable に向けて、contrib と non-free を含めておくのを忘れないでください。Unstable ではなく stable ベースのシステムで使いたい方は APT を適当に設定<sup>\*3</sup>すれば部分的に unstable のパッケージを使うことができます。

<sup>\*1</sup> <http://www.debian.org>

<sup>\*2</sup> <http://sourceforge.net/projects/ideotype>

<sup>\*3</sup> <http://wiki.debian.org/AptPinning>

## 4 第1章 セットアップ

### 1.4.2 Tarball

Tarball からのインストールはおすすめしません。できる限りパッケージ管理システムを使ってください。あえて tarball からインストールしたい場合は、`make` を使ってください。インストール先を変えるには `DESTDIR` を指定してください。

```
$ tar zxvf ideotype-x.y.z.tar.gz
$ cd ideotype-x.y.z
$ make
$ make install DESTDIR=/home/jdoe
```

## 第 2 章

# 使い方

ワークフローは単純です。ただ原稿を用意してソフトウェアを実行するだけです。

1. 原稿を用意する
2. IdeoType を実行して PDF を生成する

あとは好きなだけ原稿を編集して PDF を作り直せばよいのです。結果に満足したら、不要なファイルを片付けましょう。以降のセクションで具体的な操作方法を説明します。

### 2.1 原稿を準備する

---

IdeoType が受け付ける原稿形式は、XHTML によく似ています<sup>\*1</sup>。技術的には XHTML+MathML のサブセットで、class や id や title やその他の属性で意味を補ったものです（いわゆる microformats<sup>\*2</sup>の一種）。

注意事項：

- 原稿は valid な XHTML でなければならない
- 文字コードは UTF-8 でなければならない
- ファイル名の拡張子は.xhtml でなければならない
- 表を使ったレイアウト、複雑な表組み、GIF 画像、ルビ要素などは（まだ）サポートされていない

---

<sup>\*1</sup> 原稿形式に XHTML を採用した理由は、(X)HTML は多くの人々とソフトウェアにサポートされており、そして本が必要とする豊かな情報を表現できるからです。ワープロや blog や Wiki といった他のツールの HTML 出力も利用できます（後述 (§2.4.1, p. 7)）。

<sup>\*2</sup> <http://www.microformats.org/>

原稿は例えばこのようになります：

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.1 plus MathML 2.0//EN"
"http://www.w3.org/TR/MathML2/dtd/xhtml11-f.dtd">
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml">
  <head>
    <meta http-equiv="Content-type" content="application/xhtml+xml;" />
    <meta name="author" content="John Doe" />
    <meta name="date" content="2038-02-31" />
    <title>Title</title>
  </head>
  <body>
    ...
  </body>
</html>
```

記法の詳細は記法のセクション (§A, p. 11) を参照してください。

## 2.2 原稿から PDF を生成する

---

現時点での標準の UI はコマンドラインインタフェースです。

原稿ファイルが *foo.xhtml* だとしたら、`ideotype build foo.pdf` とタイプすれば PDF が生成されます。

配布物に含まれるテストデータで試せます。

```
% cp -r /usr/share/doc/ideotype ./
% cd ideotype
% ls test/testdata.xhtml
test/testdata.xhtml
% ideotype build test/testdata.pdf
...
% ls test/testdata.pdf
test/testdata.pdf
%
```

## 2.3 ファイルを片付ける

---

不要な中間ファイルを削除するには、`ideotype clean bookname` とタイプします。

```
% ideotype clean test/testdata
```

PDF を含め、生成されたファイルをすべて削除するには、**ideotype distclean bookname** とタイプします。

```
% ideotype distclean test/testdata
```

## 2.4 進んだ使い方

---

### 2.4.1 既存の HTML 文書を原稿として使う

HTML 文書とそれに付随する画像などを Web からダウンロードするには、**ideotype download URL** とタイプします。

```
% ideotype download http://example.org/foo.html
```

HTML 文書とそれに付随する画像などをインポートするには、**ideotype import filename** とタイプします。

```
% ideotype import example.org/foo.html
```

ただしルールに沿って書かれたきれいな HTML ファイルしかインポートできません。この機能はまだ簡易的なものです。

### 2.4.2 特定の言語だけを出力する

`langs` オプションを使うと、特定の `xml:lang` 属性を持った要素(および `xml:lang` 属性を持たない、全言語に共通の要素)だけを出力できます。

```
% ideotype --langs="en" build test/testdata.pdf
% ideotype --langs="all" build test/testdata.pdf
```

原稿に不正な `xml:lang` 値があると意図しない結果になるのでご注意ください。

### 2.4.3 プロジェクトごとのカスタマイズ

プロジェクト設定ファイルを書き換えればプロジェクトごとの設定を変えられます(まだ実験的な機能です)。

```
% ideotype initproject .
% cp .book/html2latex.xsl.example .book/html2latex.xsl
% $EDITOR .book/html2latex.xsl
```

## 2.5 トラブルシューティング

---

- Q. 原稿を変換してくれません。  
A. 原稿が valid な XHTML かどうか、バリデータ<sup>\*3</sup>を使って確認してみてください。  
A.  
中間ファイルを作るとトラブルシュートに役立ちます。  

```
% ideotype build test/testdata.tex
```
- Q. 機能 X はサポートされていますか？  
A. **ideotype --help** とタイプしてヘルプメッセージを読んでみてください。  
もしそこに見つからなければ、すみません、まだです。手を貸していただければ早く実現できるかもしれません。

---

<sup>\*3</sup> <http://validator.w3.org/>



## 第 3 章

# カスタマイズ

### 3.1 出力スタイルのカスタマイズ

---

本の構成や体裁は、プロジェクトカスタマイズの仕組みを使えば変えられます。注釈を脚注ではなく後注にしたければ、注釈を変換するテンプレートを上書きしてください。見出しをこったものにしたければ、スタイル定義を追加します。

プロジェクトカスタマイズの仕組みは現在開発中です。興味があれば、**ideotype initproject** としたときに作られる \$PROJECT/.book/以下のファイルを見てみてください。



## 付録 A

# 原稿の記法

IdeoType の原稿の記法は、いくつかの例外と拡張表記法を除けば、HTML とほとんど変わりません（これらの割り当ては暫定的なもので、将来変更される可能性があります）。

### A.1 タイトルと見出し

---

#### A.1.1 head/title

head/title はタイトル（書名）です（これは奥付のためのものです。スタイルを付けないでください）。

```
<head>
  <title>Foo Tutorial</title>
</head>
```

#### A.1.2 head/meta

head/meta でメタ情報を設定できます（例えば name="author" content="John Doe", name="date" content="2038-02-31"）。

```
<head>
  <meta name="author" content="John Doe"/>
</head>
```

### A.1.3 h1 .. h6

h1 は書名 (タイトル) です (これは大扉のためのもので、スタイルを設定しても構いません)。

```
<h1><em>Foo</em> Tutorial</h1>
```

h2 is chapter, h3 section, h4 subsection, ...

## A.2 ブロックおよびインラインのテキスト

---

### A.2.1 p

p は段落です。class="continued"で1行目のインデントが抑制されます。

```
<p>First paragraph.</p>
<p>Second paragraph.</p>
<p class="continued">Second paragraph continued.</p>
First paragraph.
Second paragraph.
Second paragraph continued.
```

### A.2.2 address, blockquote, div

address, blockquote, div は HTML と同じ意味です。

```
<address>info@example.org</address>

<blockquote>
  <p>If you do not think about the future, you cannot have one.
    -- John Galsworthy</p>
</blockquote>

<div> does not do much without class specified.</div>

info@example.org
  If you do not think about the future, you cannot have one. -- John Galsworthy
div does not do much without class specified.
```

### A.2.3 pre

pre は整形済みのコードブロックで、通常はタイプライタフォントで出力されます。

```
<pre>#include &lt;stdio.h&gt;

int main(void) {
    printf("hello, world\n");
    return 0;
}</pre>

#include <stdio.h>

int main(void) {
    printf("hello, world\n");
    return 0;
}
```

#### A.2.4 abbr, acronym

abbr と acronym はその title が脚注として挿入されます。

```
<abbr title="World Wide Web">WWW</abbr> is an abbreviation while
<acronym title="radio detecting and ranging">rader</acronym>
is an acronym.
WWW*1 is an abbreviation while rader*2 is an acronym.
```

#### A.2.5 br

br は改行です。おかしなところでエラーが出る原因になるので、濫用は避けてください。

```
First line<br/> and the second line.
First line
and the second line.
```

#### A.2.6 cite

cite は参考文献の引用です。title 属性が参照用のキーになります。

```
<cite title="doe2000">John Doe, "Foo Bar"</cite>
[?, John Doe, "Foo Bar"]
```

---

\*1 World Wide Web

\*2 radio detecting and ranging

### A.2.7 code

code インラインのプログラムコードです。通常はタイプライタフォントで出力されます。

```
function <code>foo()</code>.  
function foo().
```

### A.2.8 dfn

dfn は自動的に索引項目を生成します。class に noindexterm を指定すれば抑制されます。

```
<dfn>HTML</dfn> stands for Hypertext Markup language.  
HTML stands for Hypertext Markup language.
```

### A.2.9 em

em は強調です。strong はさらに強い強調です。

```
<em>emphasized</em> or <strong>strong</strong>.  
emphasized or strong.
```

### A.2.10 kbd

kbd はユーザ入力です（通常は強調されタイプライタフォントで出力される）。samp はコンピュータからの出力です（通常はタイプライタフォントで出力される）。

```
Type <kbd>echo foo</kbd> at the terminal.  
Type echo foo at the terminal.
```

### A.2.11 q

q はインラインでの引用です。

```
She say <q>Good bye</q>, I say <q>Hello</q>.  
She say “Good bye”, I say “Hello”.
```

### A.2.12 span

span は、指定した class に応じていろいろな仕事をします。

`<span class="foo">class</span>` is used for expanding features.  
`class` is used for expanding features.

### A.2.13 a (with scheme)

`a href="http://..."`は URL を脚注として挿入します。

See `<a href="http://example.org/">Example.org</a>`.

See Example.org<sup>\*3</sup>.

### A.2.14 a (with fragment)

`a href="#..."`は相互参照を挿入します。

We will discuss the meaning of foo `<a href="#sec-foo">later</a>`.

We will discuss the meaning of foo later (§A.2.15, p. 15).

### A.2.15 id

\* `id="..."`は相互参照先や文書取り込み先を識別するための印です。

`<p id="sec-foo">Foo is a sample name of anything.</p>`

Foo is a sample name of anything.

### A.2.16 var

`var` は変数で、通常 *italic* (イタリック) で出力されます。

Variable `<var>fname</var>` refers to a filename.

Variable *fname* refers to a filename.

### A.2.17 del

`del` は削除 (打ち消し線) で `ins` は挿入 (下線) です。

`<del>Deleted</del>` and `<ins>inserted</ins>`.

Deleted and inserted.

---

<sup>\*3</sup> <http://example.org/>

## A.3 Lists

---

リスト (dl, ul, ol) は HTML と同じです。ただしあまり深くネストさせないでください。

### A.3.1 dl

dl は定義リストです。複数の用語に 1 つの説明文が対応する書き方はまだサポートされていません。

```
<dl>
  <dt>running head</dt>
  <dt>running title</dt>
  <dd>A heading printed at the top of every (other) page of a book.</dd>
  <dt>date</dt>
  <dd>Specific time that can be named.</dd>
  <dd>A person with whom you are dating.</dd>
  <dd>Fruit of the date palm.</dd>
</dl>
```

running head

running title A heading printed at the top of every (other) page of a book.

date Specific time that can be named.

A person with whom you are dating.

Fruit of the date palm.

## A.4 サポートされていないもの

---

- applet, object, map は無視されます。
- form は無視されます。
- 古いスタイルのいくつか (b, big, i, small, sub, sup, tt) は、今のところ無視されることはありませんが、廃止されました。代わりに em などの代替要素を使ってください。
- a name="..." は今のところ無視されることはありませんが、廃止されました。代わりに id 属性を使ってください。



## A.5 グラフィックス

### A.5.1 サポートされている形式

- PNG (.png)
- JPEG (.jpg)
- EPS (.eps) :  
ダイアグラム用。埋め込まれたテキストのエンコーディングは EUC-JP になっている必要があります。
- PDF (.pdf) :  
ダイアグラム用。埋め込まれたテキストのエンコーディングは Unicode (UTF-16?) になっている必要があります。

注意 :

- カラーはまだサポートされていません。今のところサポートされているのはグレースケール画像のみです。
- PNG や JPEG には適切な解像度を設定しておいてください。または ideotype.rb の `--force-conventional-resolution` オプションを使ってください。

### A.5.2 img

`img src="..."` はインラインのグラフィックスです。

```
Book logo.
```



Book logo.

### A.5.3 div class="figure"

`div class="figure"` は浮動する図版になります。 `div class="figure" / p class="caption"` はキャプションです。



図 A.1 Rxvt のスクリーンショット (PNG(前者) と JPEG(後者))。

```

<div class="figure" id="fig-photo">
  
  <p class="caption">
    J. Peress' 1-atm dive suit, Tritonia, explored the Lusitania wreck i
  </p>
</div>

```

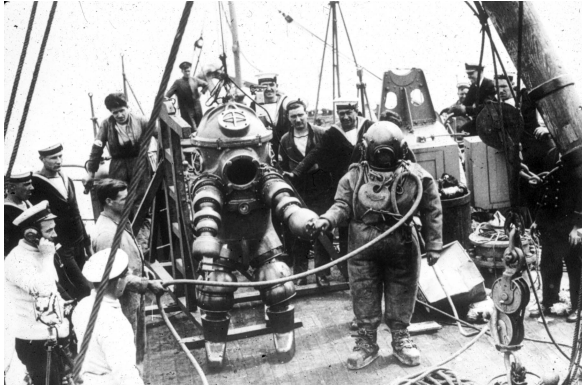


図 A.2 J. Peress' 1-atm dive suit, Tritonia, explored the Lusitania wreck in 1935.

## A.6 表

表のサポートは暫定的なものです。可能なら表は使わないでください。いつだって表はドローツールで描いて図版として挿入できます。

- table は表です。
- table / caption は表のキャプションです。

```
<table summary="table comparison">
  <caption>Comparison of tables.</caption>
  <tr><th></th><th>float</th><th>caption</th><th>nestable</th></tr>
  <tr><th>HTML table</th><td>no</td><td>yes</td><td>yes</td></tr>
  <tr><th>LaTeX tabular</th><td>no</td><td>no</td><td>yes</td></tr>
  <tr><th>LaTeX table</th><td>yes</td><td>yes</td><td>no</td></tr>
</table>
```

表 A.1 Comparison of tables.

|                      | <b>float</b> | <b>caption</b> | <b>nestable</b> |
|----------------------|--------------|----------------|-----------------|
| <b>HTML table</b>    | no           | yes            | yes             |
| <b>LaTeX tabular</b> | no           | no             | yes             |
| <b>LaTeX table</b>   | yes          | yes            | no              |

## A.7 数式表現

数式表現は MathML を利用してサポートされています。名前空間の識別子を忘れずに追加してください。

- `math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML" display="block"` はディスプレイ (ブロック) 数式です。
- `math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML" display="block" id="foo"` は番号付きのディスプレイ数式です。
- `math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML"` はインラインの数式です。

### A.7.1 数式 (ブロック)

```
<math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML"
  display="block" id="eqn-block">
  <mfrac>
    <mrow><mi>d</mi></mrow>
    <mrow><mi>d</mi><mi>x</mi></mrow>
  </mfrac>
  <msubsup><mo>&int;</mo><mi>a</mi><mi>x</mi></msubsup>
  <mi>f</mi>
  <mfenced>
    <msup><mi>x</mi><mrow><mo>&prime;</mo></mrow></msup>
  </mfenced>
  <mi>d</mi><msup><mi>x</mi><mo>&prime;</mo></msup>
  <mo>=</mo>
  <mi>f</mi><mfenced><mi>x</mi></mfenced>
</math>
```

$$\frac{d}{dx} \int_a^x f(x') dx' = f(x) \quad (\text{A.1})$$

## A.7.2 数式 (インライン)

<p>The same <a href="#eqn-block">equation</a> can be placed inline:  
 <math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML" id="eqn-inline">  
   <mfrac>  
     <mrow><mi>d</mi></mrow>  
     <mrow><mi>d</mi><mi>x</mi></mrow>  
 </mfrac>  
 <msubsup><mo>&int;</mo><mi>a</mi><mi>x</mi></msubsup>  
 <mi>f</mi>  
 <mfenced>  
   <msup><mi>x</mi><mrow><mo>&prime;</mo></mrow></msup>  
 </mfenced>  
 <mi>d</mi><msup><mi>x</mi><mo>&prime;</mo></msup>  
 <mo>=</mo>  
 <mi>f</mi><mfenced><mi>x</mi></mfenced>  
 </math> as well.</p>

The same equation (A.1, p. 20) can be placed inline:  $\frac{d}{dx} \int_a^x f(x') dx' = f(x)$  as well.

## A.8 拡張

### A.8.1 前付・本文・付録・後付

`div class="frontmatter"`は前付の始まりを示します。前付では一般に、セクション見出しには番号が付かず、ノンブルにはローマ数字(時計数字)が使われます。

`div class="mainmatter"`はここで前付が終わり本文が始まることを示します。

`div class="appendix"`はここで通常の章が終わり付録が始まることを示します。付録は通常の章とは別立てでセクション番号が振られます(例:第1章と付録Aなど)。

`div class="backmatter"`はここで本文が終わり後付が始まることを示します。

```
<div class="frontmatter"/>
```

Frontmatter (title, colophon, dedication, foreword, preface, acknowledgments, table of contents, etc)

```
<div class="mainmatter"/>
```

Chapters

```
<div class="appendix"/>
```

## 22 付録 A 原稿の記法

Appendices

```
<div class="backmatter"/>
```

Backmatter (index, etc.)

### A.8.2 目次

`div class="toc"`は目次 (§, p. i) を挿入します。

```
<div class="toc"/>
```

### A.8.3 索引

`div class="index"`は索引を挿入します。

```
<div class="index"/>
```

`a class="indexterm"`は索引項目を作ります。

```
<a class="indexterm">some term</a>
some term
```

並び順を決めるキーを特に指定したい場合は `title` 属性を使います。階層化された索引を作る際は、`href` 属性と `rel` で親項目を指定します。

```
Sing and play are both <a class="indexterm" title="verb" id="idx-verb">v
<a class="indexterm" title="sing" href="#idx-verb" rel="parent">Singing<
Sing and play are both verbs. Singing is fun.
```

### A.8.4 ファイルの取り込み

`a` に `include` クラスが指定されていると外部ファイルを取り込みます。

- `a href="foo" class="include"`はファイルをプレーンテキストとして取り込みます。
- `a href="foo#..." class="include"`はファイルを本文原稿の一部として取り込みます (指定された `id` を持つ要素以降が取り込まれます)。

### A.8.5 除外

`exclude` クラスが指定された要素は出力から除外されます。相互参照のためのラベル (アンカー) も、`id` 属性の有無にかかわらず入りません。もしラベルが必要なら `label` クラスを明に指定してください。

```
<p>We have apples<span class="exclude"> and bananas</span>.</p>
<p class="label exclude" id="orange">They have oranges.</p>
We have apples.
```

### A.8.6 エスケープが抑制されたテキスト

`noescape` クラスが指定された要素はエスケープされずにバックエンドに渡ります。注意して使ってください。

```
<p>Escaped (default): \fbox{\LaTeX?}.
Not escaped: <span class="noescape">\fbox{\LaTeX?}</span>.</p>
Escaped (default): \fbox{\LaTeX?}. Not escaped: LATEX?.
```

### A.8.7 脚注

`a` は脚注を表すのにも使われます。

`a href="#foo" class="footnotemark"` は脚注記号を挿入します。`ul class="footnotes" / li class="footnotetext"` は脚注のテキストです。

```
<p>
Footnote <a href="#fn-fnmark" class="footnotemark">marks</a> and
footnote <a href="#fn-fntext" class="footnotemark">texts</a> must be i.
</p>
<ul class="footnotes">
<li class="footnotetext" id="fn-fnmark">Footnote mark.</li>
<li class="footnotetext" id="fn-fntext">Footnote text.</li>
</ul>
Footnote marks*4 and footnote texts*5 must be in pairs.
```

---

<sup>\*4</sup> Footnote mark.

<sup>\*5</sup> Footnote text.

### A.8.8 翻訳サポート

原稿の要素を出力に含めるかどうかは `xml:lang` 属性に基づいて取捨選択できます。これは翻訳プロジェクトで便利です。

\* `xml:lang="..."`で言語を設定します。

```
<p>  
  <span xml:lang="en">English text.</span>  
  <span xml:lang="ja">日本語のテキスト.</span>  
</p>
```

日本語のテキスト。



# 索引

HTML, 14

some term, 22

verbs, 22

    Singing, 22